

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 3 部門第 2 区分

【発行日】平成22年1月21日 (2010.1.21)

【公開番号】特開2008-143838(P2008-143838A)

【公開日】平成20年6月26日 (2008.6.26)

【年通号数】公開・登録公報2008-025

【出願番号】特願2006-332753(P2006-332753)

【国際特許分類】

A 6 1 K 8/25 (2006.01)

A 6 1 Q 1/00 (2006.01)

A 6 1 Q 1/12 (2006.01)

A 6 1 K 8/29 (2006.01)

A 6 1 K 8/26 (2006.01)

A 6 1 K 8/81 (2006.01)

A 6 1 K 8/891 (2006.01)

A 6 1 K 8/19 (2006.01)

A 6 1 K 8/86 (2006.01)

A 6 1 K 8/37 (2006.01)

【F I】

A 6 1 K 8/25

A 6 1 Q 1/00

A 6 1 Q 1/12

A 6 1 K 8/29

A 6 1 K 8/26

A 6 1 K 8/81

A 6 1 K 8/891

A 6 1 K 8/19

A 6 1 K 8/86

A 6 1 K 8/37

【手続補正書】

【提出日】平成21年11月24日 (2009.11.24)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

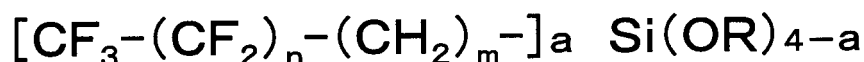
【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

1) 次に示す一般式 (I) で表されるパーフルオロアルキルシランで、表面を処理してなる、表面処理粉体と、2) 次の (A) に示す粉体から選択される 1 種乃至は 2 種以上とを含有することを特徴とする、化粧料。

【化 1】



一般式 (I)

(但し、式中 n は 2 ~ 7 の整数を表し、m は 1 ~ 3 の整数を表し、a は 1 ~ 3 の整数を表し、R は炭素数 1 ~ 3 のアルキル基を表す。)

(A) セリサイトチタニア、シリカ・酸化鉄被覆セリサイトチタニア、二酸化チタン被覆シリカ、長さ10～1000μmの繊維、管状二酸化チタン、劈開タルク、劈開セリサイト、虹彩箔、ハイドロキシアパタイト処理粉体、金属イオンクラスレート粘土鉱物

【請求項2】

前記一般式(I)に表されるパーフルオロアルキルシランが、トリエトキシ(8, 8, 8, 7, 7, 6, 6, 5, 5, 4, 4, 3, 3 - トリデカフルオロオクチル)シラン、ジエトキシビス(8, 8, 8, 7, 7, 6, 6, 5, 5, 4, 4, 3, 3 - トリデカフルオロオクチル)シラン又はエトキシトリス(8, 8, 8, 7, 7, 6, 6, 5, 5, 4, 4, 3, 3 - トリデカフルオロオクチル)シランであることを特徴とする、請求項1に記載の化粧料。

【請求項3】

前記表面を処理されるべき粉体は、セリサイト、マイカ及びタルクから選択されるものであることを特徴とする、請求項1又は2に記載の化粧料。

【請求項4】

更に、前記必須成分A群に分類されない、球状粉体を含有することを特徴とする、請求項1～3何れか1項に記載の化粧料。

【請求項5】

前記、球状粉体は、中空構造を有しても良いアクリル樹脂粉体、ポリエチレン粉末、無水珪酸、アルミナ、メチルシロキサン網状重合体、メチルポリシロキサン樹脂、珪酸カルシウム、珪酸マグネシウム、炭酸カルシウム及び炭酸マグネシウムから選択されるものであることを特徴とする、請求項4に記載の化粧料。

【請求項6】

前記球状粉体の含有量は、化粧料全量に対して10～30質量%であることを特徴とする、請求項4または5に記載の化粧料。

【請求項7】

油剤として、パーフルオロポリエーテル、高粘度シリコン油、ポリアルキレンオキシド変性メチルポリシロキサン、グリセリン変性メチルポリシロキサン、リンゴ酸のジエステル、N - アシルグルタミン酸のジエステルを含有することを特徴とする、請求項1～6何れか1項に記載の化粧料。

【手続補正2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0002

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0002】

化粧料に於いて、粉体は、その光学的効果によって、皮膚のシミ、そばかすなどの好ましくない色素の局在化などをカバーし、目立たなくさせる作用を有する。このような光学効果は、特異的な方向にのみ効果を発揮する粉体、隠蔽力を有しながら表面の拡散効果により感じさせない粉体などの特殊機能粉体により培われることが多い。特殊機能粉体は、少量の配合でも著しい光学効果を発揮するものであり、この為、このような粉体を含有する化粧料に於いては、該特殊機能粉体の局在化はその本来の効果を著しく損なうものであり、これを防ぐことが粉体化粧料の最大の課題となっている。このような粉体化粧料における粉体の局在化現象は、液体濡れの変化とともに「化粧崩れ」として捉えられている。局在化の原因としては、汗などによる皮膚密着性の低下、流体効果による粉体の移動や振動、風などの物理適応力による粉体の移動、脱落が挙げられ、このような化粧崩れを防ぐ手段としては、「局在化抑制」、「液体濡れ抑制」においても、粉体の表面を種々の表面処理剤で被覆する方法が知られており、このような被覆剤としては、ハイドロジェンメチルシロキサンの焼付、シランカップリング剤によるシリル化、パーフルオロアルキルリン酸塩による被覆、N - アシルグルタミン酸塩による被覆、リン脂質による被覆などが知られている。この内、パーフルオロアルキル基を有する表面処理剤による被覆は、撥水性と撥油性とを

備えているために、汗による局在化も、皮脂による局在化もともに防げるため、化粧持ちの向上に有用な技術となっている。この様なパーフルオロ基を有する化合物を利用した技術としては、例えば、ペンタ - 3 , 3 , 3 - トリフルオロプロピルペンタメチルシクロペンタシロキサン等のパーフルオロアルキルシロキサンを利用した技術（例えば、特許文献 1、特許文献 2、特許文献 3 を参照）、パーフルオロアルキル基を有するリン酸エステル塩を利用した技術（例えば、特許文献 4、特許文献 5 を参照）、パーフルオロアルキル・ポリオキシアルキレン共変性オルガノポリシロキサン（例えば、特許文献 6 を参照）、或いは、アルキルシランが炭素数 6 ~ 30 のアルキル基を有し、パーフルオロアルキルシランのフルオロカーボン数が 1 ~ 30 であるシランカップリング剤を用いた処理（例えば、特許文献 7 を参照）などが存する。しかしながら、この様なパーフルオロアルキル基を有する化合物による表面処理は時として、非処理のものと同様の化粧持ちしか発揮しない場合も存し、安定的に化粧持ちの良さが具現化できる技術の開発が望まれていた。

【手続補正 3】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0004

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0004】

一方、1) 次を示す一般式 (I) で表されるパーフルオロアルキルシランで、表面を処理してなる、表面処理粉体と、2) 次の (A) に示す粉体から選択される 1 種乃至は 2 種以上とを含有する化粧料は全く知られていないし、この様な化粧料が優れた化粧持ちを有することも知られていない。

【手続補正 4】

【補正対象書類名】明細書

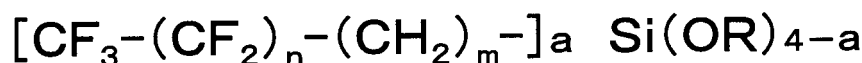
【補正対象項目名】0005

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0005】

【化 1】



一般式 (I)

(但し、式中 n は 2 ~ 7 の整数を表し、m は 1 ~ 3 の整数を表し、a は 1 ~ 3 の整数を表し、R は炭素数 1 ~ 3 のアルキル基を表す。)

【手続補正 5】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0006

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0006】

【特許文献 1】特開 2005 - 289831 号公報

【特許文献 2】特開 2003 - 40738 号公報

【特許文献 3】特開 2005 - 213250 号公報

【特許文献 4】特開 2004 - 189652 号公報

【特許文献 5】特開 2002 - 338429 号公報

【特許文献 6】特開 2002 - 114663 号公報

【特許文献 7】特開 2002 - 80748 号公報

【特許文献 8】特開平 6 - 157262 号公報

【特許文献 9】特開 2000 - 229808 号公報

【特許文献 10】WO 98 / 1 1 8 6 5  
【特許文献 11】特開 2 0 0 2 - 4 7 1 2 0 号公報  
【特許文献 12】特開 2 0 0 4 - 3 5 3 6 2 号公報  
【特許文献 13】特開平 6 - 9 3 3 7 号公報  
【特許文献 14】特開平 1 0 - 1 7 4 3 8 号公報  
【特許文献 15】特開 2 0 0 2 - 2 0 2 1 8 号公報  
【特許文献 16】特開平 1 0 - 8 7 4 2 0 号公報  
【手続補正 6】  
【補正対象書類名】明細書  
【補正対象項目名】0 0 0 8  
【補正方法】変更  
【補正の内容】  
【0 0 0 8】

このような状況に鑑みて、本発明者らは、粉体含有化粧料に於いて、セリサイトチタニア、シリカ・酸化鉄被覆セリサイトチタニア、二酸化チタン被覆シリカ、長さ 10 ~ 1000  $\mu\text{m}$  の繊維、管状二酸化チタン、劈開タルク、劈開セリサイト、虹彩箔、ハイドロキシアパタイト処理粉体、金属イオンクラスレート粘土鉱物等の特殊機能粉体の経時による局在化を防ぐ手段を求めて、鋭意研究努力を重ねた結果、前記一般式 (I) で表されるパーフルオロアルキルシランで、表面を処理してなる、表面処理粉体とともに共存させることにより、このような局在化が防げることを見だし、発明を完成させるに至った。即ち、本発明は以下に示すとおりである。

(1) 1) 前記一般式 (I) で表されるパーフルオロアルキルシランで、表面を処理してなる、表面処理粉体と、2) 次の (A) に示す粉体から選択される 1 種乃至は 2 種以上とを含有することを特徴とする、化粧料。

(A) セリサイトチタニア、シリカ・酸化鉄被覆セリサイトチタニア、二酸化チタン被覆シリカ、長さ 10 ~ 1000  $\mu\text{m}$  の繊維、管状二酸化チタン、劈開タルク、劈開セリサイト、虹彩箔、ハイドロキシアパタイト処理粉体、金属イオンクラスレート粘土鉱物

(2) 前記一般式 (I) に表されるパーフルオロアルキルシランが、トリエトキシ (8, 8, 8, 7, 7, 6, 6, 5, 5, 4, 4, 3, 3 - トリデカフルオロオクチル) シラン、ジエトキシビス (8, 8, 8, 7, 7, 6, 6, 5, 5, 4, 4, 3, 3 - トリデカフルオロオクチル) シラン又はエトキシトリス (8, 8, 8, 7, 7, 6, 6, 5, 5, 4, 4, 3, 3 - トリデカフルオロオクチル) シランであることを特徴とする、(1) に記載の化粧料。

(3) 前記表面を処理されるべき粉体は、セリサイト、マイカ及びタルクから選択されるものであることを特徴とする、(1) 又は (2) に記載の化粧料。

(4) 更に、前記必須成分 A 群に分類されない、球状粉体を含有することを特徴とする、(1) ~ (3) の何れかに記載の化粧料。

(5) 前記、球状粉体は、中空構造を有しても良いアクリル樹脂粉体、ポリエチレン粉末、無水珪酸、アルミナ、メチルシロキサン網状重合体、メチルポリシロキサン樹脂、珪酸カルシウム、珪酸マグネシウム、炭酸カルシウム及び炭酸マグネシウムから選択されるものであることを特徴とする、(4) に記載の化粧料。

(6) 前記球状粉体の含有量は、化粧料全量に対して 10 ~ 30 質量%であることを特徴とする、(4) または (5) に記載の化粧料。

(7) 油剤として、パーフルオロポリエーテル、高粘度シリコン油、ポリアルキレンオキシド変性メチルポリシロキサン、グリセリン変性メチルポリシロキサン、ダイマー酸のジエステル、リンゴ酸のジエステル、N - アシルグルタミン酸のジエステルを含有することを特徴とする、(1) ~ (6) の何れかに記載の化粧料。

【手続補正 7】  
【補正対象書類名】明細書  
【補正対象項目名】0 0 1 0

## 【補正方法】変更

## 【補正の内容】

## 【0010】

## (1) 本発明の化粧料の必須成分である表面処理粉体

本発明の化粧料は必須成分として、粉体を前記一般式(Ⅰ)に表されるパーフルオロアルキルシランで表面処理したものを必須成分として含有することを特徴とする。前記粉体としては、セリサイト、マイカ及びタルクから選択されるものを前記一般式(Ⅰ)で処理したものが特に好ましい。これは、セリサイト、マイカ及びタルクは何れも、脂溶性の部分と、水溶性の部分とを有し、且つ、板状構造であるため、汗などの水性成分や、皮脂などの油性成分でその局在性を崩す蓋然性が特に高いためである。このような粉体を前記一般式(Ⅰ)の化合物で表面処理することにより、このような化粧崩れを著しく軽減できる。この様に、粉体を一般式(Ⅰ)に表されるパーフルオロアルキルシランで処理するに際しては、通常のシランカップリング法に準じて行えば良く、例えば、粉体を、溶剤などで希釈した前記一般式(Ⅰ)のパーフルオロアルキルシランで被覆し、100～300 で、所望により減圧しながら、焼付を行うことにより得ることが出来る。前記一般式(Ⅰ)に表される化合物としては、トリエトキシ(8, 8, 8, 7, 7, 6, 6, 5, 5, 4, 4, 3, 3 - トリデカフルオロオクチル)シラン、ジエトキシビス(8, 8, 8, 7, 7, 6, 6, 5, 5, 4, 4, 3, 3 - トリデカフルオロオクチル)シラン又はエトキシトリス(8, 8, 8, 7, 7, 6, 6, 5, 5, 4, 4, 3, 3 - トリデカフルオロオクチル)シランが好ましく例示できる。前記一般式(Ⅰ)に表されるパーフルオロアルキルシランには、既に市販のものが存し、このような市販品を購入して前記処理に付すことが出来る。前記一般式(Ⅰ)に表されるパーフルオロアルキルシランの市販品としては、Dynasylan(商標)F8261(トリエトキシ(8, 8, 8, 7, 7, 6, 6, 5, 5, 4, 4, 3, 3 - トリデカフルオロオクチル)シラン)が好ましく例示できる。かかるシランカップリング剤である、前記一般式(Ⅰ)で表されるパーフルオロアルキルシランは唯一種を表面処理に用いることも出来るし、二種以上を組み合わせ用いることも出来る。好ましい粉体とパーフルオロアルキルシランとの量比は1:99～30:70であり、より好ましくは2:98～10:90である。かかるパーフルオロアルキルシランを適当な溶剤、例えば、クロロホルムや塩化メチレンなどで1～100倍量を加え一様にコートした後、加熱処理、脱アルコール反応を行い、シランカップリングを行えばよい。このような処理粉体は斯くの如くに調整することも出来るし、既に市販されている処理粉体を購入して利用することも出来る。市販されている処理粉体としては、例えば、大東化成工業株式会社より販売されているFHSセリサイト(セリサイト97質量部を、トリエトキシ(8, 8, 8, 7, 7, 6, 6, 5, 5, 4, 4, 3, 3 - トリデカフルオロオクチル)シラン3質量部でシランカップリング処理した粉体)、FHSマイカ(マイカ97質量部を、トリエトキシ(8, 8, 8, 7, 7, 6, 6, 5, 5, 4, 4, 3, 3 - トリデカフルオロオクチル)シラン3質量部でシランカップリング処理した粉体)、FHSタルク(タルク97質量部を、トリエトキシ(8, 8, 8, 7, 7, 6, 6, 5, 5, 4, 4, 3, 3 - トリデカフルオロオクチル)シラン3質量部でシランカップリング処理した粉体)等が好適に例示できる。かかる粉体は、唯一種を含有させることも出来るし、二種以上を組み合わせ含有させることも出来る。かかる粉体の好ましい含有量は、総量で化粧料全量に対して、5～50質量%含有することが好ましく、10～40質量%がより好ましい。このような処理により、汗や皮脂による化粧崩れの特に著しいセリサイト、タルク、マイカの化粧崩れを防ぐことが出来る。更に、皮膚との接触表面積が大きく、パーフルオロアルキルシランによる摩擦軽減効果の高いこれらの粉体に於いて、それほどの摩擦低下効果を示さず、以て、物理的脱落を防ぐことが出来る。これにより、もう一方の必須成分である、特殊機能粉体の局在化或いは脱落を防ぐことが出来る。この為、化粧効果の著しい変化である、化粧崩れを防ぐことが出来る。

## 【手続補正8】

## 【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】 0 0 1 1

【補正方法】 変更

【補正の内容】

【 0 0 1 1 】

( 2 ) 本発明の化粧料の必須成分である特殊機能粉体

本発明の化粧料は、粉体を前記一般式 ( I ) に表されるパーフルオロアルキルシランで表面処理した表面処理粉体の他に、次の ( A ) に示す粉体から選択される 1 種乃至は 2 種以上とを含有することを特徴とする。

【手続補正 9】

【補正対象書類名】 明細書

【補正対象項目名】 0 0 1 4

【補正方法】 変更

【補正の内容】

【 0 0 1 4 】

セリサイトチタニアは、セリサイトの表面に二酸化チタンで被覆したものであり、該二酸化チタンの量は、基体となるセリサイトに対して 5 ~ 3 0 質量 % であることが好ましく、かかる粉体はセリサイトを塩化チタニアの水溶液に分散させ、これを弱アルカリで中和し、水酸化チタニアをセリサイト上に沈積させ、これを焼成し二酸化チタンに酸化させることにより得ることが出来る。このようなセリサイトチタニアには既に市販のものが存し、かかる市販品を購入して利用することが出来る。このような市販品としては、例えば、触媒化成工業株式会社から販売されている「カバーリーフ」シリーズが例示できる。このようなセリサイトチタニアはそのまま化粧料に含有させることも出来るし、表面を処理して含有させることも出来る。表面の処理は、通常化粧料粉体で用いられているものであれば特段の限定はなく、例えば、ハイドロジェンメチルポリシロキサン焼付処理 ( 単にシリコーン処理と称することもある )、メチルポリシロキサン焼付処理、シリルカップリング処理、パーフルオロアルキルリン酸エステルジエタノールアミン塩被覆処理、レシチン被覆処理、N - アシルグルタミン酸塩被覆処理、ステアリン酸アルミニウム等の金属石鹸被覆処理等が好適に例示できる。勿論、本発明では、前記一般式 ( I ) で表されるパーフルオロアルキルシランによる表面処理も排除しない。

【手続補正 1 0】

【補正対象書類名】 明細書

【補正対象項目名】 0 0 1 5

【補正方法】 変更

【補正の内容】

【 0 0 1 5 】

シリカ・酸化鉄被覆セリサイトチタニアは、塩化第二鉄の水溶液にセリサイトチタニア分散させ、これに珪酸ソーダの水溶液を加えて中和し、シリカと水酸化鉄の混合沈殿を生ぜしめ、これを焼成、酸化することにより製造することが出来る。シリカはセリサイトチタニアの質量に対して 1 ~ 2 0 質量 % であることが好ましく、酸化鉄はセリサイトの質量に対して 1 ~ 2 0 質量 % であることが好ましく、シリカと酸化鉄の質量比は、1 : 2 ~ 2 : 1 が特に好ましい。このようなシリカ・酸化鉄被覆セリサイトチタニアには触媒化成工業株式会社から販売されている「ダーマリアルリーフ」が例示できる。かかる粉体も、そのまま化粧料に含有させることも出来るし、表面を処理して含有させることも出来る。表面の処理は、通常化粧料粉体で用いられているものであれば特段の限定はなく、例えば、ハイドロジェンメチルポリシロキサン焼付処理 ( 単にシリコーン処理と称することもある )、メチルポリシロキサン焼付処理、シリルカップリング処理、パーフルオロアルキルリン酸エステルジエタノールアミン塩被覆処理、レシチン被覆処理、N - アシルグルタミン酸塩被覆処理、ステアリン酸アルミニウム等の金属石鹸被覆処理等が好適に例示できる。勿論、本発明では、前記一般式 ( I ) で表されるパーフルオロアルキルシランによる表面処理も排除しない。

## 【手続補正 1 1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 2 4

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 0 2 4】

又、本発明の化粧料に於いては、前記必須成分以外に、通常化粧料で使用されている任意成分を含有することが出来る。この様な任意成分としては、例えば、セタノール、ミリスチルアルコール、オレイルアルコール、ラウリルアルコール、セトステアリルアルコール、ステアリルアルコール、アラキルアルコール、ベヘニルアルコール、ホホバアルコール、キミルアルコール、セラキルアルコール、パチルアルコール、ヘキシルデカノール、イソステアリルアルコール、2 - オクチルドデカノール、ダイマージオール等の高級アルコール類、ベンジルアルコール等のアラルキルアルコール及び誘導体、ラウリン酸、ミリスチン酸、パルミチン酸、ステアリン酸、イソステアリン酸、ベヘン酸、ウンデシレン酸、12 - ヒドロキシステアリン酸、パルミトオレイン酸、オレイン酸、リノール酸、リノレイン酸、エルカ酸、ドコサヘキサエン酸、エイコサペンタエン酸、イソヘキサデカン酸、アンテイソヘンイコサン酸、長鎖分岐脂肪酸、ダイマー酸、水素添加ダイマー酸等の高級脂肪酸類及びそのアルミニウム塩、カルシウム塩、マグネシウム塩、亜鉛塩、カリウム塩等の金属石けん類、及びアミド等の含窒素誘導体類、流動パラフィン（ミネラルオイル）、重質流動イソパラフィン、軽質流動イソパラフィン、- オレフィンオリゴマー、ポリイソブテン、水添ポリイソブテン、ポリブテン、スクワラン、オリーブ由来スクワラン、スクワレン、ワセリン、固型パラフィン等の炭化素類、キャンデリラワックス、カルナウバワックス、ライスワックス、木ろう、みつろう、モンタンワックス、オゾケライト、セレシン、パラフィンワックス、マイクロクリスタリンワックス、ペトロラタム、フィッシュアトロプシュワックス、ポリエチレンワックス、エチレン・プロピレンコポリマー等のワックス類、ヤシ油、パーム油、パーム核油、サフラワー油、オリーブ油、ヒマシ油、アボカド油、ゴマ油、茶油、月見草油、小麦胚芽油、マカデミアナッツ油、ヘーゼルナッツ油、ククイナッツ油、ローズヒップ油、メドウフォーム油、パーシック油、ティートリー油、ハッカ油、トウモロコシ油、ナタネ油、ヒマワリ油、小麦胚芽油、アマニ油、綿実油、大豆油、落花生油、コメヌカ油、カカオ脂、シア脂、水素添加ヤシ油、水素添加ヒマシ油、ホホバ油、水素添加ホホバ油等の植物油脂類、牛脂、乳脂、馬脂、卵黄油、ミンク油、タートル油等の動物性油脂類、鯨ロウ、ラノリン、オレンジラッフィー油等の動物性ロウ類、液状ラノリン、還元ラノリン、吸着精製ラノリン、酢酸ラノリン、酢酸液状ラノリン、ヒドロキシラノリン、ポリオキシエチレンラノリン、ラノリン脂肪酸、硬質ラノリン脂肪酸、ラノリンアルコール、酢酸ラノリンアルコール、酢酸（セチル・ラノリル）エステル等のラノリン類、レシチン、ホスファチジルコリン、ホスファチジルエタノールアミン、ホスファチジルセリン、ホスファチジルグリセロール、ホスファチジルイノシトール、スフィンゴミエリン等のスフィンゴリン脂質、ホスファチジン酸、リゾレシチン等のリン脂質類、水素添加大豆リン脂質、部分水素添加大豆リン脂質、水素添加卵黄リン脂質、部分水素添加卵黄リン脂質等のリン脂質誘導体類、コレステロール、ジヒドロコレステロール、ラノステロール、ジヒドロラノステロール、フィトステロール、コール酸等のステロール類、サポゲニン類、サポニン類、酢酸コレステリル、ノナン酸コレステリル、ステアリン酸コレステリル、イソステアリン酸コレステリル、オレイン酸コレステリル、N - ラウロイル - L - グルタミン酸ジ（コレステリル / ベヘニル / オクチルドデシル）、N - ラウロイル - L - グルタミン酸ジ（コレステリル / オクチルドデシル）、N - ラウロイル - L - グルタミン酸ジ（フィトステリル / ベヘニル / オクチルドデシル）、N - ラウロイル - L - グルタミン酸ジ（フィトステリル / オクチルドデシル）、N - ラウロイルサルコシンイソプロピル等のアシルサルコシンアルキルエステル、12 - ヒドロキシステアリン酸コレステリル、マカデミアナッツ油脂肪酸コレステリル、マカデミアナッツ油脂肪酸フィトステリル、イソステアリン酸フィトステリル、軟質ラノリン脂肪酸コレステリル、

硬質ラノリン脂肪酸コレステリル、長鎖分岐脂肪酸コレステリル、長鎖 - ヒドロキシ脂肪酸コレステリル等のステロールエステル類、リン脂質・コレステロール複合体、リン脂質・フィトステロール複合体等の脂質複合体、ミリスチン酸オクチルドデシル、ミリスチン酸ヘキシルデシル、イソステアリン酸オクチルドデシル、パルミチン酸オクチルドデシル、オクタン酸セチル、オクタン酸ヘキシルデシル、イソノナン酸イソトリデシル、イソノナン酸イソノニル、イソノナン酸オクチル、イソノナン酸イソトリデシル、ネオペンタン酸イソデシル、ネオペンタン酸イソトリデシル、ネオペンタン酸イソステアリル、ネオデカン酸オクチルドデシル、オレイン酸オレイル、オレイン酸オクチルドデシル、リシノレイン酸オクチルドデシル、ラノリン脂肪酸オクチルドデシル、ジメチルオクタン酸ヘキシルデシル、エルカ酸オクチルドデシル、イソステアリン酸硬化ヒマシ油、オレイン酸エチル、アボカド油脂肪酸エチル、ミリスチン酸イソプロピル、パルミチン酸イソプロピル、パルミチン酸オクチル、イソステアリン酸イソプロピル、ラノリン脂肪酸イソプロピル、セバチン酸ジエチル、セバチン酸ジイソプロピル、セバチン酸ジオクチル、アジピン酸ジイソプロピル、セバチン酸ジブチルオクチル、アジピン酸ジイソブチル、コハク酸ジオクチル、クエン酸トリエチル等のモノアルコールカルボン酸エステル類、乳酸セチル、リング酸ジイソステアリル、モノイソステアリン酸水添ヒマシ油等のオキシ酸エステル類、トリオクタン酸グリセリル、トリオレイン酸グリセリル、トリイソステアリン酸グリセリル、ジイソステアリン酸グリセリル、トリ（カプリル酸／カプリン酸）グリセリル、トリ（カプリル酸／カプリン酸／ミリスチン酸／ステアリン酸）グリセリル、水添ロジントリグリセリド（水素添加エステルガム）、ロジントリグリセリド（エステルガム）、ベヘン酸エイコサン二酸グリセリル、トリオクタン酸トリメチロールプロパン、トリイソステアリン酸トリメチロールプロパン、ジオクタン酸ネオペンチルグリコール、ジカプリン酸ネオペンチルグリコール、ジオクタン酸 2 - ブチル - 2 - エチル - 1, 3 - プロパンジオール、ジオレイン酸プロピレングリコール、テトラオクタン酸ペンタエリスリチル、水素添加ロジンペンタエリスリチル、トリエチルヘキサ酸ジトリメチロールプロパン、（イソステアリン酸／セバシン酸）ジトリメチロールプロパン、トリエチルヘキサ酸ペンタエリスリチル、（ヒドロキシステアリン酸／ステアリン酸／ロジン酸）ジペンタエリスリチル、ジイソステアリン酸ジグリセリル、テトライソステアリン酸ポリグリセリル、ノナイソステアリン酸ポリグリセリル - 10、デカ（エルカ酸／イソステアリン酸／リシノレイン酸）ポリグリセリル - 8、（ヘキシルデカン酸／セバシン酸）ジグリセリルオリゴエステル、ジステアリン酸グリコール（ジステアリン酸エチレングリコール）等の多価アルコール脂肪酸エステル類、ダイマージリノール酸ジイソプロピル、ダイマージリノール酸ジイソステアリル、ダイマージリノール酸ジ（イソステアリル／フィトステリル）、ダイマージリノール酸（フィトステリル／ベヘニル）、ダイマージリノール酸（フィトステリル／イソステアリル／セチル／ステアリル／ベヘニル）、ダイマージリノール酸ダイマージリノレイル、ジイソステアリン酸ダイマージリノレイル、ダイマージリノレイル水添ロジン縮合物、ダイマージリノール酸硬化ヒマシ油、ヒドロキシアルキルダイマージリノレイルエーテル等のダイマー酸若しくはダイマージオールの誘導体、ヤシ油脂肪酸モノエタノールアミド（コカミドMEA）、ヤシ油脂肪酸ジエタノールアミド（コカミドDEA）、ラウリン酸モノエタノールアミド（ラウラミドMEA）、ラウリン酸ジエタノールアミド（ラウラミドDEA）、ラウリン酸モノイソプロパノールアミド（ラウラミドMIPA）、パルミチン酸モノエタノールアミド（パルタミドMEA）、パルミチン酸ジエタノールアミド（パルタミドDEA）、ヤシ油脂肪酸メチルエタノールアミド（コカミドメチルMEA）等の脂肪酸アルカノールアミド類、ジメチコン（ジメチルポリシロキサン）、高重合ジメチコン（高重合ジメチルポリシロキサン）、シクロメチコン（環状ジメチルシロキサン、デカメチルシクロペンタシロキサン）、フェニルトリメチコン、ジフェニルジメチコン、フェニルジメチコン、ステアロキシプロピルジメチルアミン、（アミノエチルアミノプロピルメチコン／ジメチコン）コポリマー、ジメチコノール、ジメチコノールクロスポリマー、シリコーン樹脂、シリコーンゴム、アミノプロピルジメチコン及びアモジメチコン等のアミノ変性シリコーン、カチオン変性シリコーン、ジメチ



コンコポリオール等のポリエーテル変性シリコーン、ポリグリセリン変性シリコーン、糖変性シリコーン、カルボン酸変性シリコーン、リン酸変性シリコーン、硫酸変性シリコーン、アルキル変性シリコーン、脂肪酸変性シリコーン、アルキルエーテル変性シリコーン、アミノ酸変性シリコーン、ペプチド変性シリコーン、フッ素変性シリコーン、カチオン変性及びポリエーテル変性シリコーン、アミノ変性及びポリエーテル変性シリコーン、アルキル変性及びポリエーテル変性シリコーン、ポリシロキサン・オキシアルキレン共重合体等のシリコーン類、パーフルオロデカン、パーフルオロオクタン、パーフルオロポリエーテル等のフッ素系油剤類が、好ましいものとして挙げられる。

【**手続補正 1 2**】

【**補正対象書類名**】明細書

【**補正対象項目名**】0 0 2 5

【**補正方法**】変更

【**補正の内容**】

【**0 0 2 5**】

保湿剤・感触向上剤としては、グリセリン、1, 3 - ブチレングリコール、プロピレングリコール、3 - メチル - 1, 3 - ブタンジオール、1, 3 - プロパンジオール、2 - メチル - 1, 3 - プロパンジオール、トリメチロールプロパン、ペンタエリスリトール、ヘキシレングリコール、ジグリセリン、ポリグリセリン、ジエチレングリコール、ポリエチレングリコール、ジプロピレングリコール、ポリプロピレングリコール、エチレングリコール・プロピレングリコール共重合体等のポリオール類及びその重合体、ジエチレングリコールモノエチルエーテル（エトキシジグリコール）、エチレングリコールモノエチルエーテル、エチレングリコールモノブチルエーテル、ジエチレングリコールジブチルエーテル等のグリコールアルキルエーテル類、ソルビトール、キシリトール、エリスリトール、マンニトール、マルチトール等の糖アルコール類、グルコース、フルクトース、ガラクトース、マンノース、トレオース、キシロース、アラビノース、フコース、リボース、デオキシリボース、マルトース、トレハロース、ラクトース、ラフィノース、グルコン酸、グルクロン酸、シクロデキストリン類（-、-、-シクロデキストリン、及び、マルトシル化、ヒドロキシアルキル化等の修飾シクロデキストリン）、- グルカン、キチン、キトサン、ヘパリン及び誘導体、ペクチン、アラビノガラクトタン、デキストリン、デキストラン、グリコーゲン、エチルグルコシド、メタクリル酸グルコシルエチル重合物若しくは共重合物等の糖類及びその誘導体類、ヒアルロン酸、ヒアルロン酸ナトリウム、コンドロイチン硫酸ナトリウム、ムコイチン硫酸、カロニン硫酸、ケラト硫酸、デルマトン硫酸、シロキクラゲ抽出物、シロキクラゲ多糖体、フコイダン、チューベロース多糖体、天然由来多糖体、クエン酸、酒石酸、乳酸等の有機酸及びその塩、尿素、2 - ピロリドン - 5 - カルボン酸及びそのナトリウム等の塩、ベタイン（トリメチルグリシン）、プロリン、ヒドロキシプロリン、アルギニン、リジン、セリン、グリシン、アラニン、フェニルアラニン、チロシン、- アラニン、スレオニン、グルタミン酸、グルタミン、アスパラギン、アスパラギン酸、システイン、シスチン、メチオニン、ロイシン、イソロイシン、バリン、トリプトファン、ヒスチジン、タウリン等のアミノ酸類及びその塩、コラーゲン、魚由来コラーゲン、アテロコラーゲン、ゼラチン、エラスチン、コラーゲン分解ペプチド、加水分解コラーゲン、塩化ヒドロキシプロピルアンモニウム加水分解コラーゲン、エラスチン分解ペプチド、ケラチン分解ペプチド、加水分解ケラチン、コンキオリン分解ペプチド、加水分解コンキオリン、シルク蛋白分解ペプチド、加水分解シルク、ラウロイル加水分解シルクナトリウム、大豆蛋白分解ペプチド、小麦蛋白分解ペプチド、加水分解小麦蛋白、カゼイン分解ペプチド、アシル化ペプチド等の蛋白ペプチド類及びその誘導体、パルミトイルオリゴペプチド、パルミトイルペンタペプチド、パルミトイルテトラペプチド等のアシル化ペプチド類、シリル化ペプチド類、乳酸菌培養液、酵母抽出液、卵殻膜タンパク、牛顎下腺ムチン、ヒポタウリン、ゴマリグナン配糖体、グルタチオン、アルブミン、乳清、塩化コリン、ホスホリルコリン、胎盤抽出液、エアラスチン、コラーゲン、アロエ抽出物、ハマメリス水、ヘチマ水、カモミラエキス、カンゾウエキス、コンフリーエキ

ス、シルクエキス、イザヨイバラエキス、セイヨウノコギリソウエキス、ユーカリエクス、メリロートエキス等の動物・植物抽出成分、天然型セラミド（タイプ１、２、３、４、５、６）、ヒドロキシセラミド、疑似セラミド、スフィンゴ糖脂質、セラミド及び糖セラミド含有エキス等のセラミド類が好ましいものとして挙げられる。

【手続補正１３】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】００２６

【補正方法】変更

【補正の内容】

【００２６】

界面活性剤としては、陰イオン性界面活性剤、非イオン界面活性剤、陽イオン性界面活性剤、両性界面活性剤、高分子界面活性剤等が好ましいものとして挙げられる。界面活性剤のHLBには特に制限はなく、１程度の低いものから２０程度の高いものまで使用でき、HLB低いものと高いものを組み合わせることも好ましい。界面活性剤として好ましいものを例示すると、陰イオン性界面活性剤では、ラウリン酸カリウム、ミリスチン酸カリウム等の脂肪酸塩、ラウリル硫酸ナトリウム、ラウリル硫酸トリエタノールアミン、ラウリル硫酸アンモニウム等のアルキル硫酸エステル塩、ラウレス硫酸ナトリウム、ラウレス硫酸トリエタノールアミン等のポリオキシエチレンアルキル硫酸塩、ココイルメチルタウリンナトリウム、ココイルメチルタウリンカリウム、ラウロイルメチルタウリンナトリウム、ミリストイルメチルタウリンナトリウム、ラウロイルメチルアラニンナトリウム、ラウロイルサルコシンナトリウム、ラウロイルサルコシントリエタノールアミン、ラウロイルグルタミン酸メチルアラニンナトリウム等のアシルＮ－メチルアミノ酸塩、ココイルグルタミン酸ナトリウム、ココイルグルタミン酸トリエタノールアミン、ラウロイルグルタミン酸ナトリウム、ミリストイルグルタミン酸ナトリウム、ステアロイルグルタミン酸ナトリウム、パルミトイルアスパラギン酸ジトリエタノールアミン、ココイルアラニントリエタノールアミン等のアシルアミノ酸塩、ラウレス酢酸ナトリウム等のポリオキシエチレンアルキルエーテル酢酸塩、ラウロイルモノエタノールアミドコハク酸ナトリウム等のコハク酸エステル塩、脂肪酸アルカノールアミドエーテルカルボン酸塩、アシル乳酸塩、ポリオキシエチレン脂肪アミン硫酸塩、脂肪酸アルカノールアミド硫酸塩、硬化ヤシ油脂肪酸グリセリン硫酸ナトリウム等の脂肪酸グリセリド硫酸塩、アルキルベンゼンポリオキシエチレン硫酸塩、　　－オレフィンスルホン酸ナトリウム等のオレフィンスルホン酸塩、スルホコハク酸ラウリル２ナトリウム、スルホコハク酸ジオクチルナトリウム等のアルキルスルホコハク酸塩、スルホコハク酸ラウレス２ナトリウム、モノラウロイルモノエタノールアミドポリオキシエチレンスルホコハク酸ナトリウム、ラウリルポリプロピレングリコールスルホコハク酸ナトリウム等のアルキルエーテルスルホコハク酸塩、テトラデシルベンゼンスルホン酸ナトリウム、テトラデシルベンゼンスルホン酸トリエタノールアミン等のアルキルベンゼンスルホン酸塩、アルキルナフタレンスルホン酸塩、アルカンスルホン酸塩、　　－スルホ脂肪酸メチルエステル塩、アシルイセチオン酸塩、アルキルグリシジルエーテルスルホン酸塩、アルキルスルホ酢酸塩、ラウレスリン酸ナトリウム、ジラウレスリン酸ナトリウム、トリラウレスリン酸ナトリウム、モノオレスリン酸ナトリウム等のアルキルエーテルリン酸エステル塩、ラウリルリン酸カリウム等のアルキルリン酸エステル塩、カゼインナトリウム、アルキルアリアルエーテルリン酸塩、脂肪酸アミドエーテルリン酸塩、ホスファチジルグリセロール、ホスファチジルイノシトール、ホスファチジン酸等のリン脂質類、カルボン酸変性シリコーン、リン酸変性シリコーン、硫酸変性シリコーン等のシリコーン系陰イオン性界面活性剤等、非イオン界面活性剤では、ラウレス（ポリオキシエチレンラウリルエーテル）類、セテス（ポリオキシエチレンセチルエーテル）類、ステアレス（ポリオキシエチレンステアリルエーテル）類、ベヘネス類（ポリオキシエチレンベヘニルエーテル）、イソステアレス（ポリオキシエチレンイソステアリルエーテル）類、オクチルドデセス（ポリオキシエチレンオクチルドデシルエーテル）類等の種々のポリオキシエチレン付加数のポリオキシエチレンアルキルエーテル類、　　ポリオキシエチ

アルキルフェニルエーテル、ポリオキシエチレン硬化ヒマシ油、ポリオキシエチレン  
ヒマシ油、ポリオキシエチレン硬化ヒマシ油モノイソステアレート、ポリオキシエチレン  
硬化ヒマシ油トリイソステアレート、ポリオキシエチレン硬化ヒマシ油モノピログルタミ  
ン酸モノイソステアリン酸ジエステル、ポリオキシエチレン硬化ヒマシ油マレイン酸等  
のヒマシ油及び硬化ヒマシ油誘導体、ポリオキシエチレンフィトステロール、ポリオキシエ  
チレンコレステロール、ポリオキシエチレンコレスタノール、ポリオキシエチレンラノリ  
ン、ポリオキシエチレン還元ラノリン、ポリオキシエチレン・ポリオキシプロピレンセチ  
ルエーテル、ポリオキシエチレン・ポリオキシプロピレン 2 - デシルテトラデシルエーテ  
ル、ポリオキシエチレン・ポリオキシプロピレンモノブチルエーテル、ポリオキシエチレ  
ン・ポリオキシプロピレン水添ラノリン、ポリオキシエチレン・ポリオキシプロピレング  
リセリンエーテル等のポリオキシエチレン・ポリオキシプロピレンアルキルエーテル、ポリ  
オキシエチレン・ポリオキシプロピレングリコール、P P G - 9 ジグリセリル等の（ポリ  
リ）グリセリンポリオキシプロピレングリコール、ステアリン酸グリセリル、イソステア  
リン酸グリセリル、パルミチン酸グリセリル、ミリスチン酸グリセリル、オレイン酸グリ  
セリル、ヤシ油脂肪酸グリセリル、モノ綿実油脂肪酸グリセリン、モノエルカ酸グリセリ  
ン、セスキオレイン酸グリセリン、、'-オレイン酸ピログルタミン酸グリセリン、  
モノステアリン酸グリセリンリンゴ酸等のグリセリン脂肪酸部分エステル類、ステアリン  
酸ポリグリセリル - 2、同 3、同 4、同 5、同 6、同 8、同 10、ジステアリン酸ポリグ  
リセリル - 6、同 10、トリステアリン酸ポリグリセリル - 2、デカステアリン酸ポリグ  
リセリル - 10、イソステアリン酸ポリグリセリル - 2、同 3、同 4、同 5、同 6、同 8  
、同 10、ジイソステアリン酸ポリグリセリル - 2（ジイソステアリン酸ジグリセリル）  
、同 3、同 10、トリイソステアリン酸ポリグリセリル - 2、テトライソステアリン酸ポリ  
グリセリル - 2、デカイソステアリン酸ポリグリセリル - 10、オレイン酸ポリグリセ  
リル - 2、同 3、同 4、同 5、同 6、同 8、同 10、ジオレイン酸ポリグリセリル - 6、  
トリオレイン酸ポリグリセリル - 2、デカオレイン酸ポリグリセリル - 10 等のポリグ  
リセリン脂肪酸エステル、モノステアリン酸エチレングリコール等のエチレングリコールモ  
ノ脂肪酸エステル、モノステアリン酸プロピレングリコール等のプロピレングリコールモ  
ノ脂肪酸エステル、ペンタエリスリトール部分脂肪酸エステル、ソルビトール部分脂肪酸  
エステル、マルチトール部分脂肪酸エステル、マルチトールエーテル、ソルビタンモノオ  
レエート、ソルビタンモノイソステアレート、ソルビタンモノラウレート、ソルビタンモ  
ノパルミテート、ソルビタンモノステアレート、ソルビタンセスキオレエート、ソルビタ  
ントリオレエート、ペンタ - 2 - エチルヘキシル酸ジグリセロールソルビタン、テトラ -  
2 - エチルヘキシル酸ジグリセロールソルビタン等のソルビタン脂肪酸エステル、ショ糖  
脂肪酸エステル、メチルグルコシド脂肪酸エステル、ウンデシレン酸トレハロース等の糖  
誘導体部分エステル、カプリリルグルコシド等のアルキルグルコシド、アルキルポリグ  
リコシド、ラノリンアルコール、還元ラノリン、ポリオキシエチレンジステアレート、ポリ  
チレングリコールジイソステアレート、ポリオキシエチレンモノオレエート、ポリオキシ  
エチレンジオレエート等のポリオキシエチレン脂肪酸モノ及びジエステル、ポリオキシエ  
チレン・プロピレングリコール脂肪酸エステル、ポリオキシエチレングリセリンモノステ  
アレート、ポリオキシエチレングリセリンモノイソステアレート、ポリオキシエチレング  
リセリントリイソステアレート等のポリオキシエチレンモノオレエート等のポリオキシエ  
チレングリセリン脂肪酸エステル、ポリオキシエチレンソルビタンモノオレエート、ポリ  
オキシエチレンソルビタンモノステアレート、ポリオキシエチレンソルビタンモノオレ  
ート、ポリオキシエチレンソルビタンテトラオレエート等のポリオキシエチレンソルビタン  
脂肪酸エステル、ポリオキシエチレンソルビトールモノラウレート、ポリオキシエチレン  
ソルビトールモノオレエート、ポリオキシエチレンソルビトールペンタオレエート、ポリ  
オキシエチレンソルビトールモノステアレート等のポリオキシエチレンソルビトール脂肪  
酸エステル、ポリオキシエチレンメチルグルコシド脂肪酸エステル、ポリオキシエチレン  
アルキルエーテル脂肪酸エステル、ポリオキシエチレンソルビトールミツロウ等のポリオ  
キシエチレン動植物油脂類、イソステアリルグリセリルエーテル、キミルアルコール、セ

ラキルアルコール、パチルアルコール等のアルキルグリセリルエーテル類、多価アルコールアルキルエーテル、ポリオキシエチレンアルキルアミン、テトラポリオキシエチレン・テトラポリオキシプロピレン・エチレンジアミン縮合物類、サポニン、ソホロリビッド等の天然系界面活性剤、ポリオキシエチレン脂肪酸アミド、ヤシ油脂肪酸モノエタノールアミド（コカミドMEA）、ヤシ油脂肪酸ジエタノールアミド（コカミドDEA）、ラウリン酸モノエタノールアミド（ラウラミドMEA）、ラウリン酸ジエタノールアミド（ラウラミドDEA）、ラウリン酸モノイソプロパノールアミド（ラウラミドMIPA）、パルミチン酸モノエタノールアミド（パルタミドMEA）、パルミチン酸ジエタノールアミド（パルタミドDEA）、ヤシ油脂肪酸メチルエタノールアミド（コカミドメチルMEA）等の脂肪酸アルカノールアミド類、ラウラミンオキシド、コカミンオキシド、ステアラミンオキシド、ベヘナミンオキシド等のアルキルジメチルアミンオキシド、アルキルエトキシジメチルアミンオキシド、ポリオキシエチレンアルキルメルカプタン、ジメチコンコポリオール等のポリエーテル変性シリコーン、ポリシロキサン・オキシアルキレン共重合体、ポリグリセリン変性シリコーン、糖変性シリコーン等のシリコーン系非イオン性界面活性剤等、陽イオン性界面活性剤では、ベヘントリモニウムクロリド、ステアルトリモニウムクロリド、セトリモニウムクロリド、ラウリルトリモニウムクロリド等のアルキルトリメチルアンモニウムクロリド、ステアリルトリモニウムブロミド等のアルキルトリメチルアンモニウムブロミド、ジステアリルジモニウムクロリド、ジココジモニウムクロリド等のジアルキルジメチルアンモニウムクロリド、ステアラミドプロピルジメチルアミン、ステアラミドエチルジエチルアミン等の脂肪酸アミドアミン及びその塩、ステアロキシプロピルジメチルアミン等のアルキルエーテルアミン及びその塩または四級塩、エチル硫酸長鎖分岐脂肪酸（12～31）アミノプロピルエチルジメチルアンモニウム、エチル硫酸ラノリン脂肪酸アミノプロピルエチルジメチルアンモニウム等の脂肪酸アミド型四級アンモニウム塩、ポリオキシエチレンアルキルアミン及びその塩または四級塩、アルキルアミン塩、脂肪酸アミドグアニジウム塩、アルキルエーテルアミンモニウム塩、アルキルトリアルキレングリコールアンモニウム塩、ベンザルコニウム塩、ベンゼトニウム塩、塩化セチルピリジニウム等のピリジニウム塩、イミダゾリニウム塩、アルキルイソキノリニウム塩、ジアルキルモリホニウム塩、ポリアミン脂肪酸誘導体、アミノプロピルジメチコン及びアモジメチコン等のアミノ変性シリコーン、カチオン変性シリコーン、カチオン変性及びポリエーテル変性シリコーン、アミノ変性及びポリエーテル変性シリコーン等のシリコーン系陽イオン性界面活性剤等、両性界面活性剤では、ラウリルベタイン（ラウリルジメチルアミノ酢酸ベタイン）等のN-アルキル-N,N-ジメチルアミノ酸ベタイン、コカミドプロピルベタイン、ラウラミドプロピルベタイン等の脂肪酸アミドアルキル-N,N-ジメチルアミノ酸ベタイン、ココアンホ酢酸ナトリウム、ラウロアンホ酢酸ナトリウム等のイミダゾリン型ベタイン、アルキルジメチルタウリン等のアルキルスルホベタイン、アルキルジメチルアミノエタノール硫酸エステル等の硫酸型ベタイン、アルキルジメチルアミノエタノールリン酸エステル等のリン酸型ベタイン、ホスファチジルコリン、ホスファチジルエタノールアミン、ホスファチジルセリン、スフィンゴミエリン等のスフィンゴリン脂質、リゾレシチン、水素添加大豆リン脂質、部分水素添加大豆リン脂質、水素添加卵黄リン脂質、部分水素添加卵黄リン脂質、水酸化レシチン等のリン脂質類、シリコーン系両性界面活性剤等、高分子界面活性剤では、ポリビニルアルコール、アルギン酸ナトリウム、デンプン誘導体、トラガントガム、アクリル酸・メタアクリル酸アルキル共重合体、シリコーン系各種界面活性剤が好ましいものとして挙げられる。

【手続補正14】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0027

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0027】

高分子・増粘剤・ゲル化剤としては、グアーガム、ローカストビーンガム、クィーンス

シード、カラギーナン、ガラクトン、アラビアガム、タラガム、タマリンド、ファーセラン、カラヤガム、トロロアオイ、キャラガム、トラガントガム、ペクチン、ペクチン酸及びナトリウム塩等の塩、アルギン酸及びナトリウム塩等の塩、マンナン、コメ、トウモロコシ、パレイショ、コムギ等のデンプン、キサンタンガム、デキストラン、サクシノグルカン、カードラン、ヒアルロン酸及びその塩、ザンサンガム、ブルラン、ジェランガム、キチン、キトサン、寒天、カッソウエキス、コンドロイチン硫酸塩、カゼイン、コラーゲン、ゼラチン、アルブミン、メチルセルロース、エチルセルロース、ヒドロキシエチルセルロース、ヒドロキシプロピルセルロース、カルボキシメチルセルロース及びそのナトリウム等の塩、メチルヒドロキシプロピルセルロース、セルロース硫酸ナトリウム、ジアルキルジメチルアンモニウム硫酸セルロース、結晶セルロース、セルロース末等のセルロース及びその誘導体、可溶性デンプン、カルボキシメチルデンプン、メチルヒドロキシプロピルデンプン、メチルデンプン等のデンプン系高分子、塩化ヒドロキシプロピルトリモニウムデンプン、オクテニルコハク酸トウモロコシデンプンアルミニウム等のデンプン誘導体、アルギン酸ナトリウム、アルギン酸プロピレングリコールエステル等アルギン酸誘導体、ポリビニルピドリドン（PVP）、ポリビニルアルコール（PVA）、ビニルピドリドン・ビニルアルコール共重合体、ポリビニルメチルエーテル、ポリエチレングリコール、ポリプロピレングリコール、ポリオキシエチレン・ポリオキシプロピレン共重合体、（メタクリロイルオキシエチルカルボキシベタイン／メタクリル酸アルキル）コポリマー、（アクリレート／アクリル酸ステアリル／メタクリル酸エチルアミノオキシド）コポリマー等の両性メタクリル酸エステル共重合体、（ジメチコン／ビニルジメチコン）クロスポリマー、（アクリル酸アルキル／ジアセトンアクリルアミド）コポリマー、（アクリル酸アルキル／ジアセトンアクリルアミド）コポリマーAMP、ポリ酢酸ビニル部分けん化物、マレイン酸共重合体、ビニルピロリドン・メタクリル酸ジアルキルアミノアルキル共重合体、アクリル樹脂アルカノールアミン、ポリエステル、水分散性ポリエステル、ポリアクリルアミド、ポリアクリル酸エチル等のポリアクリル酸エステル共重合体、カルボキシビニルポリマー、ポリアクリル酸及びそのナトリウム塩等の塩、アクリル酸・メタアクリル酸エステル共重合体、アクリル酸・メタアクリル酸アルキル共重合体、ポリクオタニウム - 10 等のカチオン化セルロース、ポリクオタニウム - 7 等のジアリルジメチルアンモニウムクロリド・アクリルアミド共重合体、ポリクオタニウム - 22 等のアクリル酸・ジアリルジメチルアンモニウムクロリド共重合体、ポリクオタニウム - 39 等のアクリル酸・ジアリルジメチルアンモニウムクロリド・アクリルアミド共重合体、アクリル酸・カチオン化メタアクリル酸エステル共重合体、アクリル酸・カチオン化メタアクリル酸アミド共重合体、ポリクオタニウム - 47 等のアクリル酸・アクリル酸メチル・塩化メタクリルアミドプロピルトリメチルアンモニウム共重合体、塩化メタクリル酸コリンエステル重合体、カチオン化オリゴ糖、カチオン化デキストラン、グアーヒドロキシプロピルトリモニウムクロリド等のカチオン化多糖類、ポリエチレンイミン、カチオンポリマー、ポリクオタニウム - 51 等の2 - メタクリロイルオキシエチルホスホリルコリンの重合体及びメタクリル酸ブチル共重合体等との共重合体、アクリル樹脂エマルジョン、ポリアクリル酸エチルエマルジョン、ポリアクリルアルキルエステルエマルジョン、ポリ酢酸ビニル樹脂エマルジョン、天然ゴムラテックス、合成ラテックス等の高分子エマルジョン、ニトロセルロース、ポリウレタン類及び各種共重合体、各種シリコーン類、アクリル - シリコーングラフト共重合体等のシリコーン系各種共重合体、各種フッ素系高分子、12 - ヒドロキシステアリン酸及びその塩、パルミチン酸デキストリン、ミリスチン酸デキストリン等のデキストリン脂肪酸エステル、無水ケイ酸、煙霧状シリカ（超微粒子無水ケイ酸）、ケイ酸アルミニウムマグネシウム、ケイ酸ナトリウムマグネシウム、金属石鹸、ジアルキルリン酸金属塩、ベントナイト、ヘクトライト、有機変性粘土鉱物、ショ糖脂肪酸エステル、フラクトオリゴ糖脂肪酸エステルが好ましいものとして挙げられる。

【手続補正15】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0028

## 【補正方法】変更

## 【補正の内容】

## 【0028】

溶剤・噴射剤類としては、エタノール、2-プロパノール（イソプロピルアルコール）、ブタノール、イソブチルアルコール等の低級アルコール類、プロピレングリコール、1,3-ブチレングリコール、ジエチレングリコール、ジプロピレングリコール、イソペンチルジオール等のグリコール類、ジエチレングリコールモノエチルエーテル（エトキシジグリコール）、エチレングリコールモノエチルエーテル、エチレングリコールモノブチルエーテル、トリエチレングリコールモノエチルエーテル、ジエチレングリコールジエチルエーテル、ジエチレングリコールジブチルエーテル、プロピレングリコールモノエチルエーテル、ジプロピレングリコールモノエチルエーテル等のグリコールエーテル類、エチレングリコールモノエチルエーテルアセテート、ジエチレングリコールモノエチルエーテルアセテート、プロピレングリコールモノエチルエーテルアセテート等のグリコールエーテルエステル類、コハク酸ジエトキシエチル、エチレングリコールジサクシネート等のグリコールエステル類、ベンジルアルコール、ベンジルオキシエタノール、炭酸プロピレン、炭酸ジアルキル、アセトン、酢酸エチル、N-メチルピロリドン、トルエン、フルオロカーボン、次世代フロン、LPG、ジメチルエーテル、炭酸ガス等の噴射剤が好ましいものとして挙げられる。

## 【手続補正16】

## 【補正対象書類名】明細書

## 【補正対象項目名】0029

## 【補正方法】変更

## 【補正の内容】

## 【0029】

酸化防止剤としては、トコフェロール（ビタミンE）、酢酸トコフェロール等のトコフェロール誘導体、BHT、BHA、没食子酸プロピル等の没食子酸誘導体、ビタミンC（アスコルビン酸）および/またはその誘導体、エリソルビン酸及びその誘導体、亜硫酸ナトリウム等の亜硫酸塩、亜硫酸水素ナトリウム等の亜硫酸水素塩、チオ硫酸ナトリウム等のチオ硫酸塩、メタ亜硫酸水素塩、チオタウリン、ヒポタウリン、チオグリセロール、チオ尿素、チオグリコール酸、システイン塩酸塩が好ましいものとして挙げられる。還元剤としては、チオグリコール酸、システイン、システアミン等が好ましいものとして挙げられる。酸化剤としては、過酸化水素水、過硫酸アンモニウム、臭素酸ナトリウム、過炭酸等が好ましいものとして挙げられる。

## 【手続補正17】

## 【補正対象書類名】明細書

## 【補正対象項目名】0030

## 【補正方法】変更

## 【補正の内容】

## 【0030】

防腐剤・抗菌剤としては、メチルパラベン、エチルパラベン、プロピルパラベン、ブチルパラベン等のヒドロキシ安息香酸及びその塩若しくはそのエステル、サリチル酸、安息香酸ナトリウム、フェノキシエタノール、1,2-ペンタンジオール、1,2-ヘキサンジオール等の1,2-ジオール、メチルクロロイソチアゾリノン、メチルイソチアゾリノン等のイソチアゾリノン誘導体、イミダゾリニウムウレア、デヒドロ酢酸及びその塩、フェノール類、トリクロサン等のハロゲン化ビスフェノール類、酸アミド類、四級アンモニウム塩類、トリクロロカルバニド、ジンクピリチオン、塩化ベンザルコニウム、塩化ベンゼトニウム、ソルビン酸、クロルヘキシジン、グルコン酸クロルヘキシジン、ハロカルバン、ヘキサクロロフェン、ヒノキチオール、フェノール、イソプロピルフェノール、クレゾール、チモール、パラクロロフェノール、フェニルフェノール、フェニルフェノールナトリウム等のその他フェノール類、フェニルエチルアルコール、感光素類、抗菌性ゼオ

ライト、銀イオンが好ましいものとして挙げられる。キレート剤としては、EDTA、EDTA 2Na、EDTA 3Na、EDTA 4Na等のエドト酸塩（エチレンジアミン四酢酸塩）、HEDTA 3Na等のヒドロキシエチルエチレンジアミン三酢酸塩、ペンテト酸塩（ジエチレントリアミン五酢酸塩）、フィチン酸、エチドロン酸等のホスホン酸及びそのナトリウム塩等の塩類、シュウ酸ナトリウム、ポリアスパラギン酸、ポリグルタミン酸等のポリポリアミノ酸類、ポリリン酸ナトリウム、メタリン酸ナトリウム、リン酸、クエン酸ナトリウム、クエン酸、アラニン、ジヒドロキシエチルグリシン、グルコン酸、アスコルビン酸、コハク酸、酒石酸が好ましいものとして挙げられる。pH調整剤・酸・アルカリとしては、クエン酸、クエン酸ナトリウム、乳酸、乳酸ナトリウム、グリコール酸、コハク酸、酢酸、酢酸ナトリウム、リンゴ酸、酒石酸、フマル酸、リン酸、塩酸、硫酸、モノエタノールアミン、ジエタノールアミン、トリエタノールアミン、イソプロパノールアミン、トリイソプロパノールアミン、2-アミノ-2-メチル-1,3-プロパンジオール、2-アミノ-2-ヒドロキシメチル-1,3-プロパンジオール、アルギニン、水酸化ナトリウム、水酸化カリウム、アンモニア水、炭酸グアニジン、炭酸アンモニウムが好ましいものとして挙げられる。

【手続補正18】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0031

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0031】

粉体類としては、前記の粉体以外にマイカ、タルク、カオリン、セリサイト、モンモリロナイト、カオリナイト、雲母、白雲母、金雲母、合成雲母、紅雲母、黒雲母、パーミキュライト、炭酸マグネシウム、炭酸カルシウム、ケイ酸アルミニウム、ケイ酸バリウム、ケイ酸カルシウム、ケイ酸マグネシウム、ケイ酸ストロンチウム、タングステン酸金属塩、マグネシウム、ゼオライト、硫酸バリウム、焼成硫酸カルシウム、リン酸カルシウム、弗素アパタイト、ヒドロキシアパタイト、セラミックパウダー、ベントナイト、スメクタイト、粘土、泥、金属石鹸（例えば、ミリスチン酸亜鉛、パルミチン酸カルシウム、ステアリン酸アルミニウム）、炭酸カルシウム、ベンガラ、黄酸化鉄、黒酸化鉄、群青、紺青、カーボンブラック、酸化チタン、微粒子及び超微粒子酸化チタン、酸化亜鉛、微粒子及び超微粒子酸化亜鉛、アルミナ、シリカ、煙霧状シリカ（超微粒子無水ケイ酸）、雲母チタン、魚鱗箔、窒化ホウ素、ホトクロミック顔料、合成フッ素金雲母、微粒子複合粉体、金、アルミニウム等の各種の大きさ・形状の無機粉体、及び、これらをハイドロジェンシリコーン、環状ハイドロジェンシリコーン等のシリコーン若しくはその他のシラン若しくはチタンカップリング剤等の各種表面処理剤で処理を行って疎水化若しくは親水化した粉体等の無機粉体、デンプン、セルロース、ナイロンパウダー、ポリエチレン末、ポリメタクリル酸メチル末、ポリスチレン末、スチレンとアクリル酸の共重合体樹脂粉末、ポリエステル末、ベンゾグアナミン樹脂粉末、ポリエチレンテレフタレート・ポリメチルメタクリレート積層末、ポリエチレンテレフタレート・アルミニウム・エポキシ積層末等、ウレタン粉末、シリコーン粉末、テフロン（登録商標）粉末等の各種の大きさ・形状の有機系粉体及び表面処理粉体、有機無機複合粉体が好ましいものとして挙げられる。無機塩類としては、食塩、並塩、岩塩、海塩、天然塩等の塩化ナトリウム含有塩類、塩化カリウム、塩化アルミニウム、塩化カルシウム、塩化マグネシウム、にがり、塩化亜鉛、塩化アンモニウム、硫酸ナトリウム、硫酸アルミニウム、硫酸アルミニウム・カリウム（ミョウバン）、硫酸アルミニウム・アンモニウム、硫酸バリウム、硫酸カルシウム、硫酸カリウム、硫酸マグネシウム、硫酸亜鉛、硫酸鉄、硫酸銅、リン酸1Na・2Na・3Na等のリン酸ナトリウム類、リン酸カリウム類、リン酸カルシウム類、リン酸マグネシウム類が好ましいものとして挙げられる。

【手続補正19】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】 0 0 3 2

【補正方法】 変更

【補正の内容】

【 0 0 3 2 】

紫外線吸収剤としては、パラアミノ安息香酸、パラアミノ安息香酸モノグリセリンエステル、N, N - ジブロボキシパラアミノ安息香酸エチルエステル、N, N - ジエトキシパラアミノ安息香酸エチルエステル、N, N - ジメチルパラアミノ安息香酸エチルエステル、N, N - ジメチルパラアミノ安息香酸ブチルエステル、N, N - ジメチルパラアミノ安息香酸エチルエステル等の安息香酸系紫外線吸収剤、ホモメンチル - N - アセチルアントラニレート等のアントラニル酸系紫外線吸収剤、サリチル酸及びそのナトリウム塩、アミルサリシレート、メンチルサリシレート、ホモメンチルサリシレート、オクチルサリシレート、フェニルサリシレート、ベンジルサリシレート、p - イソプロパノールフェニルサリシレート等のサリチル酸系紫外線吸収剤、オクチルシンナメート、エチル - 4 - イソプロピルシンナメート、メチル - 2, 5 - ジイソプロピルシンナメート、エチル - 2, 4 - ジイソプロピルシンナメート、メチル - 2, 4 - ジイソプロピルシンナメート、プロピル - p - メトキシシンナメート、イソプロピル - p - メトキシシンナメート、イソアミル - p - メトキシシンナメート、2 - エチルヘキシル p - メトキシシンナメート（パラメトキシケイヒ酸オクチル）、2 - エトキシエチル - p - メトキシシンナメート（シノキサート）、シクロヘキシル - p - メトキシシンナメート、エチル - シアノ - フェニルシンナメート、2 - エチルヘキシル - シアノ - フェニルシンナメート（オクトクリン）、グリセリルモノ - 2 - エチルヘキサノイル - ジパラメトキシシンナメート、フェルラ酸及びその誘導体等の桂皮酸系紫外線吸収剤、2, 4 - ジヒドロキシベンゾフェノン、2, 2' - ジヒドロキシ - 4 - メトキシベンゾフェノン、2, 2' - ジヒドロキシ - 4, 4' - ジメトキシベンゾフェノン、2, 2', 4, 4' - テトラヒドロキシベンゾフェノン、2 - ヒドロキシ - 4 - メトキシベンゾフェノン（オキシベンゾン - 3）、2 - ヒドロキシ - 4 - メトキシ - 4' - メチルベンゾフェノン、2 - ヒドロキシ - 4 - メトキシベンゾフェノン - 5 - スルホン酸塩、4 - フェニルベンゾフェノン、2 - エチルヘキシル - 4' - フェニル - ベンゾフェノン - 2 - カルボキシレート、2 - ヒドロキシ - 4 - n - オクトキシベンゾフェノン、4 - ヒドロキシ - 3 - カルボキシベンゾフェノン等のベンゾフェノン系紫外線吸収剤、3 - (4' - メチルベンジリデン) - d, 1 - カンファー、3 - ベンジリデン - d, 1 - カンファー、2 - フェニル - 5 - メチルベンゾキサゾール、2, 2' - ヒドロキシ - 5 - メチルフェニルベンゾトリアゾール、2 - (2' - ヒドロキシ - 5' - t - オクチルフェニル)ベンゾトリアゾール、2 - (2' - ヒドロキシ - 5' - メチルフェニルベンゾトリアゾール、ジベンザラジン、ジアニソイルメタン、5 - (3, 3 - ジメチル - 2 - ノルボルニリデン) - 3 - ペンタン - 2 - オン、4 - t - ブチルメトキシジベンゾイルメタン等のジベンゾイルメタン誘導体、オクチルトリアゾン、ウロカニン酸及びウロカニン酸エチル等のウロカニン酸誘導体、2 - (2' - ヒドロキシ - 5' - メチルフェニル)ベンゾトリアゾール、1 - (3, 4 - ジメトキシフェニル) - 4, 4 - ジメチル - 1, 3 - ペンタンジオン、ジメトキシベンジリデンジオキソイミダゾリジンプロピオン酸 2 - エチルヘキシル等のヒダントイン誘導体、フェニルベンズイミダゾールスルホン酸、テレフタリリデンジカンフルスルホン酸、ドロメトリゾールトリシロキサン、アントラニル酸メチル、ルチン及びその誘導体、オリザノール及びその誘導体が好ましいものとして挙げられる。

【手続補正 2 0】

【補正対象書類名】 明細書

【補正対象項目名】 0 0 3 3

【補正方法】 変更

【補正の内容】

【 0 0 3 3 】

美白剤としては、アルブチン、 - アルブチン等のヒドロキノン配糖体及びそのエステル



【手續補正 2 1】

【補正対象項目名】 0 0 3 4

【補正の内容】

【 0 0 3 4 】

【手續補正 2 2】

【補正対象項目名】 0 0 3 5

【補正の内容】

【 0 0 3 5 】

消炎剤・抗炎症剤としては、グリチルリチン酸及びその誘導体、グリチルレチン酸誘導体、サリチル酸誘導体、ヒノキチオール、グアイアズレン、アラントイン、インドメタシン、酸化亜鉛、酢酸ヒドロコチゾン、ブレドニゾン、塩酸ジフェドラミン、マレイン酸クロルフェニラミン、桃葉エキス、蓬葉エキス等の植物エキ스가好ましいものとして挙げられる。育毛用薬剤・血行促進剤・刺激剤としては、センブリエキス、トウガラシチンキ、ショウキョウチンキ、ショウキョウエキス、カンタリスチンキ等の植物エキス・チンキ類、カブサイシン、ノニル酸ワレニルアミド、ジンゲロン、イクタモール、タンニン酸、ボルネオール、シクランデレート、シンナリジン、トラゾリン、アセチルコリン、ベラパミル、セファランチン、オリザノール、セファランチン、ビタミンE及びニコチン酸トコフェロール・酢酸トコフェロール等の誘導体、オリザノール、ニコチン酸及びニコチン酸アミド・ニコチン酸ベンジルエステル・イノシトールヘキサニコチネート、ニコチンアルコール等の誘導体、アラントイン、感光素301、感光素401、塩化カプロニウ

ム、ペンタデカン酸モノグリセリド、フラバノノール誘導体、スチグマステロール又はスチグマスタノール及びその配糖体、ミノキシジルが好ましいものとして挙げられる。ホルモン類としては、エストラジオール、エストロン、エチニルエストラジオール、コルチゾン、ヒドロコルチゾン、プレドニゾン等が好ましいものとして挙げられる。抗しわ剤、抗老化剤、ひきしめ剤、冷感剤、温感剤、創傷治癒促進剤、刺激緩和剤、鎮痛剤、細胞賦活剤等のその他の薬効剤としては、レチノール類、レチノイン酸類、レチノイン酸トコフェリル、乳酸、グリコール酸、グルコン酸、フルーツ酸、サリチル酸及びその配糖体・エステル化物等の誘導体、ヒドロキシカプリン酸、長鎖 - ヒドロキシ脂肪酸、長鎖 - ヒドロキシ脂肪酸コレステリル等の - 又は - ヒドロキシ酸類及びその誘導体類、アミノ酪酸、アミノ - - ヒドロキシ酪酸、カルニチン、クレアチン、セラミド類、スフィンゴシン類、カフェイン、キサンチン等及びその誘導体、コエンザイム Q<sub>10</sub>、カロチン、リコピン、アスタキサンチン等の抗酸化・活性酸素消去剤、カテキン類、ケルセチン等のフラボン類、イソフラボン類、没食子酸及びエステル糖誘導体、タンニン、セサミン、プロトアントシアニジン、クロロゲン酸、リンゴポリフェノール等のポリフェノール類、ルチン及び配糖体等の誘導体、ヘスペリジン及び配糖体等の誘導体、リグナン配糖体、グラブリジン、グラブレン、リクイリチン、イソリクイリチン等のカンゾウエキス関連物質、ラクトフェリン、ショウガオール、ジンゲロール、メントール、カンファー、セドロール等の香料物質及びその誘導体、カプサイシン、バニリン等及び誘導体、ジエチルトルアミド等の昆虫忌避剤、生理活性物質とシクロデキストリン類との複合体が好ましいものとして挙げられる。

【手続補正 23】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0039

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0039】

色素・着色剤・染料・顔料としては、褐色201号、黒色401号、紫色201号、紫色401号、青色1号、青色2号、青色201号、青色202号、青色203号、青色204号、青色205号、青色403号、青色404号、緑色201号、緑色202号、緑色204号、緑色205号、緑色3号、緑色401号、緑色402号、赤色102号、赤色104-1号、赤色105-1号、赤色106号、赤色2号、赤色201号、赤色202号、赤色203号、赤色204号、赤色205号、赤色206号、赤色207号、赤色208号、赤色213号、赤色214号、赤色215号、赤色218号、赤色219号、赤色220号、赤色221号、赤色223号、赤色225号、赤色226号、赤色227号、赤色228号、赤色230-1号、赤色230-2号、赤色231号、赤色232号、赤色3号、赤色401号、赤色404号、赤色405号、赤色501号、赤色502号、赤色503号、赤色504号、赤色505号、赤色506号、橙色201号、橙色203号、橙色204号、橙色205号、橙色206号、橙色207号、橙色401号、橙色402号、橙色403号、黄色201号、黄色202-1号、黄色202-2号、黄色203号、黄色204号、黄色205号、黄色4号、黄色401号、黄色402号、黄色403-1号、黄色404号、黄色405号、黄色406号、黄色407号、黄色5号等の法定色素、Acid Red 14等のその他酸性染料、Arianor Sienna Brown、Arianor Madder Red、Arianor Steel Blue、Arianor Straw Yellow等の塩基染料、HC Yellow 2、HC Yellow 5、HC Red 3、4-hydroxypropylamino-3-nitrophenol、N,N'-bis(2-hydroxyethyl)-2-nitrophenylenediamine、HC Blue 2、Basic Blue 26等のニトロ染料、分散染料、二酸化チタン、酸化亜鉛等の無機白色顔料、酸化鉄(ベンガラ)、チタン酸鉄等の無機赤色系顔料、酸化鉄等の無機褐色系顔料、黄酸化鉄、黄土等の無機黄色系顔料、黒酸化鉄、低次酸化チタン等の無機黒色系顔料、マンゴバイオレット、コバルトバイオレット等の無機紫色系顔料、酸化クロム、水酸化クロム、チタン酸コバルト等の無機緑色系顔料、群青、紺青等の無機青色系顔料、酸化チタンコーテッドマイカ、酸化チタンコーテッドオキシ塩化ビス

マス、酸化チタンコーテッドタルク、着色酸化チタンコーテッドマイカ、オキシ塩化ビスマス、魚鱗箔等のパール顔料、アルミニウムパウダー、銅パウダー、金等の金属粉末顔料、表面処理無機及び金属粉末顔料、赤色 201 号、赤色 202 号、赤色 204 号、赤色 205 号、赤色 220 号、赤色 226 号、赤色 228 号、赤色 405 号、橙色 203 号、橙色 204 号、黄色 205 号、黄色 401 号、青色 404 号、赤色 3 号、赤色 104 号、赤色 106 号、赤色 227 号、赤色 230 号、赤色 401 号、赤色 505 号、橙色 205 号、黄色 4 号、黄色 5 号、黄色 202 号、黄色 203 号、緑色 3 号、青色 1 号等のジルコニウム、バリウム又はアルミニウムレーキ等の有機顔料、表面処理有機顔料、アスタキサンチン、アリザリン等のアントラキノン類、アントシアニン、-カロチン、カテナール、カブサンチン、カルコン、カルサミン、クエルセチン、クロシン、クロロフィル、クルクミン、コチニール、シコニン等のナフトキノン類、ピキシン、フラボン類、ベタシアニン、ヘナ、ヘモグロビン、リコピン、リボフラビン、ルチン等の天然色素・染料、p-フェニレンジアミン、トルエン-2,5-ジアミン、o-, m-, 若しくは p-アミノフェノール、m-フェニレンジアミン、5-アミノ-2-メチルフェノール、レゾルシン、1-ナフトール、2,6-ジアミノピリジン等及びその塩等の酸化染料中間体及びカップラー、インドリン等の自動酸化型染料、ジヒドロキシアセトンが好ましいものとして挙げられる。

【手続補正 24】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0044

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0044】

以下に示す表 1 の処方に従って、本発明の化粧料であるファンデーション（固形粉体化粧料）を製造した。即ち、A および B の成分をヘンシェルミキサーにて混合し、1 mm 丸穴スクリーンを装着したパルペライザーで粉碎し、ヘンシェルミキサーで混合しながら C の成分を噴霧、被覆した後、1 mm ヘリングボースクリーンを装着したパルペライザーで粉碎し、金皿に充填し、加圧成形してファンデーション 1 を得た。同様に、FHS セリサイトを通常のセリサイトに、且つ、FHS タルクを通常のタルクに置換した比較例 1、FHS セリサイトを通常のシリコーン処理セリサイトに、且つ、FHS タルクを通常のシリコーン処理タルクに置換した比較例 2、FHS セリサイトを通常のパーフルオロアルキルリン酸ジエタノールアミン塩被覆セリサイトに、且つ、FHS タルクを通常のパーフルオロアルキルリン酸ジエタノールアミン塩被覆タルクに置換した比較例 3、「ダーマリアルリーフ」をセリサイトに置換した比較例 4 も同様に作製した。

【手続補正 25】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0050

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0050】

実施例 1 と同様に、表 5 に記載したように高機能性粉体の種類を換えて、表 4 の処方に従ってファンデーション 2 ~ 7 を作製し、試験例 2 と同様に評価した。結果を表 5 に示す。これより、何れのファンデーションも良好な化粧持ち効果を有しており、本発明の効果が確かめられた。

【手続補正 26】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0053

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0053】

下記に示す表 6 の処方に従って、油中水乳化剤型の紫外線防護剤 1 を作製した。即ち、イの成分の内、「ベントン 3 8 V」と多価アルコールとを混練りし、ゲルを形成させ、残りのイの成分をゲルに包含させ、80 に温度調整した後、これにハの成分をディスパーで分散させて、予め 80 に温度調整した口を、これに攪拌下徐々に加え乳化し、攪拌冷却して油中水剤型の紫外線防護剤 1 を得た。このものは試験例 2 の評価で E が 0 . 5 9 であり、同様に効果が確認できた。